

「冬の星々 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

冬の星座の中には、肉眼でも見える星雲や星団がいくつかある。子どもの天体観察は、目視が原則である。「肉眼でも見える」ということが重要なのだ。



オリオン座の「三ツ星」の左下、オリオンの「剣」の部分に「小三ツ星」と呼ばれる、縦の星の列がある。その真ん中が、有名な**オリオン大星雲 (M42)** だ。肉眼でもはっきり見える、数少ない星雲の一つだ。



写真に撮ると赤っぽく見えるが、肉眼や双眼鏡では青っぽく見える。オリオン大星雲は約 300 光年の距離にある。江戸時代の光を観ていることになる。内部では、たくさんの恒星が誕生していて「星のゆりかご」とも呼ばれている。



写真中央上の星は、全天一の輝星「シリウス」だ。その下約 4° (満月 8 個分) のところにあるのが、**M41** である。こちらも辛うじて肉眼で見える。



M41 は「散開星団」の一つである。双眼鏡や望遠鏡で見ると、たくさんの星が寄り集まっていることがわかる。こちらはオリオン大星雲よりもずっと遠くて、約 2100 光年。実に、弥生時代に星団を出発した光が、やっと地球に届いたことになる。こうして考えると、ベテルギウスやリゲルは鎌倉時代、三ツ星は室町時代、プロキオンは平成 16 年の光ということになる。まさに、「星空はタイムマシン」と言えるだろう。

*写真はすべて北軽井沢で撮影 / タカハシ P2 赤道儀